

全学共通カリキュラム外国語科目群「英語」部門非常勤講師を対象としたFDミーティングを実施

3月22日、全学共通カリキュラム外国語科目群「英語」部門の非常勤講師を対象としたFDミーティングが開催された。

「全学共通カリキュラム外国語科目群「英語」部門」は、外国語学部ドイツ語学科、フランス語学科、経済学部、法学部の学生が履修する共通カリキュラムであり、このミーティングは本学の英語教育の充実を図るためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）として毎年3月に開催されている。

FDミーティングは3部構成で行われ、午前4月からは全カリ英語に加わる新任の非常勤教員対象のガイダンスを実施。午後はまず全

体ガイダンス（54名参加）を実施し、2003年にプログラムがスタートして以降一貫して教育目的としている「一般学術目的の英語（EGAP）の訓練」と「自律英語学習者の育成と支援」を確認したほか、2024年度から実施される新カリキュラムに伴う全カリ英語の科目名変更、合理的配慮義務化の確認など、重要なトピックを取り上げた。

その後、6つの教室で科目別セッションを実施。プロジェクトベースで探求型の形式に変わる科目もあり、授業内の活動案などについて教員間でアイデアを交換し、有意義な時間となった。



藤山英樹教授の著書が、第2回日本社会関係学会賞・特別賞受賞

藤山英樹経済学部教授の著書「ゲーム理論からの社会ネットワーク分析」オーム社（2023年10月刊行）が、第2回日本社会関係学会賞・特別賞を受賞した。

日本社会関係学会賞は、社会関係、市民社会、政策評価に関する研究教育を奨励するため創設され、当該分野に関連する著作（出版物および博士論文）を広く公募の上、厳正な審査・選考が行われている。

この度、藤山教授の著書は「非常に精密な議論の積み重ねによって、社会ネットワーク分析の本質を深いレベルで読者に理解してもらおうという熱意」のもと、「ゲーム理論と社会ネットワーク論をソーシャル・キャピタルの視点を経て、統合しよう」としており、「社会ネットワーク分析に関する優れたテキストである」と

高く評価され、特別賞を受賞した。

20日に授賞式が行われ、翌21日には、受賞したテキストの内容をもとに、藤山教授が講師として、特別講義が開催された。社会の構造を解明する社会ネットワーク分析と個人の駆け引きを分析するゲーム理論から、ソーシャル・キャピタルがどのように位置づけられるかが解説され、講義中にも多くの質問がなされるなど、和やかな雰囲気が進められた。



進路選択を行う学生に対するキャリアセンターの支援体制

キャリアセンターでは皆さんの進路選択をサポートする様々な取り組みをしています。窓口相談やガイダンス・講座への参加など積極的に活用してください。PorTaII、LINEにて具体的な内容を連絡しますので、最新の情報を必ず確認してください。LINE登録についてはガイダンス・講座、キャリアセンターにてお知らせします。キャリアセンターは皆さんの進路選択をしっかりサポートしていきます。



獨協大学英語教育研究会 (DUETA) ワークショップをハイブリッド形式にて開催

3月9日、獨協大学英語教育研究会 (DUETA) 主催の第13回ワークショップ「ROUND SYSTEMの実際」が対面とオンライン併用のハイブリッド形式にて開催された。講師は、落合千裕氏（埼玉県熊谷市立玉井中学校教諭）が務め、およそ65名が参加した。参加者からは「ワークショップに参加することで、これまでの自分の実践は形式的にやりすぎていたかなと改めて思うことができた。目の前にいる生徒に合わせて自分なりに改良しながら授業を展開していきたい」「繰り返して教科書内容を学ぶ大切さを再確認できた」といった声が寄せられた。



オープンカレッジ特別講座

世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を考へる
—映画「武蔵野」を観て—を開催

3月23日、天野貞祐記念大講堂でオープンカレッジ特別講座が開催された。主に社会人を対象とした生涯学習講座「オープンカレッジ」の無料講演会で、事前の申し込みにより271名が受講した。

講師は2023年7月に世界農業遺産に認定された「落ち葉堆肥農法」について、この認定を目指してきた武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会のアドバイザーを務めていた犬井正獨協大学名誉教授。講座

では、化学肥料に頼らず落ち葉堆肥を畑に投入した土づくりから行う伝統的な堆肥農法的重要性について考察した。

受講者のアンケートでは、「今まで知らなかったことを知った楽しい時間だった」と、講義内容に満足した感想が多数寄せられた。落ち葉堆肥農法により様々な環境問題を乗り越えることができる可能性について再認識した様子が見えた。



2024年度入試状況総括

2024年度の獨協大学入試志願者数が確定した。11月に実施した「学校推薦型選抜、総合型選抜、その他選抜」では1,285人（前年比110.1%）の志願者数となった（編入・再入学は含まず）。また一般選抜においては、4年ぶりに2万人を超え、20,993人（前年比114.2%）の志願者数となった。年内入試と一般選抜を合計すると、全体で22,278人（前年比113.9%）となった。今年度は18歳人口の減少幅が大きい年であったが、本学の志

願者数は前年度を大きく上回る結果となった。指物敏一入試課長は、「今年度、本学の入試志願者は年内、一般とも増えたが、この流れを継続していけるよう、2025年度入試においても、受験生の視点に立った入試制度改革を推進するとともに、最新の動画配信や、オープンキャンパス、SNSなども積極的に活用しながら獨協大学の魅力を伝えていく。ぜひ、在学生の皆さまにもお力添えをいただきたい」と語っている。



クラブ・サークルが新入部員を募集

獨協大学の30の文化会団体（部）、40の体育会団体（部）、39の愛好会団体（サークル）では、現在、新入部員を募集している。



2024年学生会誌「雄飛」▶



各団体の情報は、以下から取得可能。

- 大学ホームページでどんな団体があるか調査
トップページ▶学生生活▶クラブ・サークル
- 冊子「雄飛」で団体の活動を確認
- 獨協大学学生会新入生歓迎ページ
(右の二次元コード)をチェック
- 学生会事務課(学生センター3階)でスタッフに相談



MORE INFORMATION